

平成 31 年度
「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立九条北小学校

令和 2 年 3 月

大阪市立九条北小学校 平成 31 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

◎学校教育目標

人間性豊かで 実践力のある児童の育成をめざす。

(校訓)

・よく考える子(知) 　・すなおな子(徳) 　・がんばる子(体)

知・徳・体のバランスのとれた未来を切り拓く「生きる力」を育成する。

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 平成 30 年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、肯定的回答の割合は 76 %で、目標数値を 4 ポイント下回った。いじめ・暴力行為のない学校、安心・安全な学校であってこそ、児童の多くは学校に行くのは楽しいと感じることができると考えれば、肯定的回答の割合を一層上げていく必要がある。また、平成 30 年度より本格実施した「九条北小安心ルール」の積極的な活用を図ることによって、児童の規範意識をより一層高めていくことが課題となる。
- 更に、安心・安全な学校づくりのために、互いの良さや違いを認め合ったり、助け合ったりする仲間づくりの取り組みを教育活動全体の場で行うとともに、道徳・人権教育の充実を図り、あらゆる場を通して「相手の気持ちを考える」意識を高められるように継続した指導に努める。
- 全国学力・学習状況調査および小学校学力経年調査において一定の成果が見られたので、前年度より学校全体で取り組んできた家庭学習の習慣化や朝学習・パワーアップタイムなどの短時間学習を一層充実させていく。
- タブレットの導入に伴い、デジタル教科書や書画カメラ等の ICT 機器を活用して、児童の興味・関心を高め、児童の主体的な学びを実現していくことが今日的課題となっている。本校では、ICT 活用率が高いことから、前年度「学校情報化優良校」に認定された。児童がわかる喜び、学ぶ楽しさを実感できるよう、全教員の授業研究などで授業力の向上に努め、「主体的・対話的で深い学び」につながるような授業改善を図っていく。
- 外遊びを日常化するとともに、地域・学校の環境を最大限生かし、運動に親しむ児童の育成に長年取り組んできたので、平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目の肯定的回答が男女共に全国平均を上回ることができた。今後は、これまでの取り組みを継続させながら、「運動やスポーツをすることは好き」や「体育の授業は楽しい」と感じる児童を更に増やせるように努めていく。
- 健康的な生活習慣の基本である「手洗い・うがい・歯みがき」の習慣化に向けて長年取り組みを進めてきた結果、一定の成果をあげることはできているが、習慣化できていない一部の児童の固定化傾向が見られる。今後は、保健強調週間の内容を工夫するとともに、学期ごとにチェック項目をしづびり、重点的な取り組みを進める。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 令和3年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、肯定的回答の割合を85%以上にする。
- 令和3年度末の校内調査（児童アンケート）における「相手の気持ちを考え、仲良く助け合っている」の項目について、肯定的回答の割合を90%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和3年度の小学校学力経年調査における総合平均正答率を大阪市の平均正答率より8ポイント向上させる。
- 令和3年度末の校内調査（児童アンケート）における「授業で自分の考えを書いたり、発表したりすることができた」の項目について、肯定的回答の割合を85%以上にする。
- 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」「体育の授業は楽しいですか」の両項目について、肯定的回答の割合を男女共に全国平均より5ポイント向上させる。
- 令和3年度末の校内調査（児童アンケート）における「手洗い・うがい・歯みがきを進んでしている」の項目について、肯定的回答の割合を95%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を85%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- ① 今年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、肯定的回答の割合を80%以上にする。
- ② 今年度末の校内調査（児童アンケート）における「相手の気持ちを考え、仲良く助け合っている」の項目について、肯定的回答の割合を88%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度と同程度にする。（前年度は、どの学年も0%）
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント増加させる。
- 小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点（教育振興基本計画の成果指標）の向上に向けて、特に課題である握力・長座体前屈・反復横とびの平均の記録を男女共に大阪市の平均値を上回るようにする。

学校園の年度目標

- ① 今年度末の校内調査（児童アンケート）における「学校の学習はわかりやすく楽しい」の項目について、肯定的回答の割合を85%以上にする。
- ② 今年度末の校内調査（児童アンケート）における「ICTを活用した調べ学習の方法を身につけることができた」の項目について、肯定的回答の割合を90%以上にする。
- ③ 今年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目について、肯定的回答の割合を男女共に全国平均より3ポイント向上させる。
- ④ 今年度末の校内調査（児童アンケート）における「給食前に手洗いをしている」の項目について、肯定的回答の割合を90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）にかかわって

- 「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、小学校学力経年調査では、76%の肯定的回答回答であり、目標数値を9ポイント下回った。「学校のきまり・規則」を「学校安心ルール」と従来からある生活指導上の「校内のきまり」を含めた広い範囲でとらえている児童が多く、結果的に肯定的回答回答の割合が低くなつたと考えられる。同様の校内調査（児童アンケート）との整合性を図りながら、「学校のきまり・規則」の具体的な内容を児童に示していくことが課題となる。
- 不登校は、前年度より増加し、目標数値に至らなかつた。
- 他の2項目については、概ね目標数値に至つてゐる。

学校園の年度目標にかかわって

- ① 「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、小学校学力経年調査では75%の肯定的回答回答であり、目標数値を5ポイント下回つた。全校児童を対象にした校内調査（児童アンケート）では83%の肯定的回答回答があつた。一方、校内調査（保護者アンケート）の「子どもが楽しく喜んで学校に行つてゐる」では92%の肯定的回答回答があり、高い評価を得ることことができた。
- ② 「相手の気持ちを考え、仲良く助け合つてゐる」の項目について、校内調査（児童アンケート）では87%の肯定的回答回答があり、概ね目標数値に至つてゐる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）にかかわって

- 「標準化得点を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。」では、6年生は104.1ポイントで前年度より0.2ポイント下回つた。また、4年生は108.9ポイントで前年度より3.3ポイント向上した。5年生は103.9ポイントで前年度より0.6ポイント下回つた。
- 「正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度と同程度にする。」では、全学年とも概ね目標数値を達成した。
- 「正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント増加させる。」では、5・6年生とも概ね目標数値を達成した。また、4年生では17ポイント目標数値を大きく上回つた。これは、学校全体で家庭学習の習慣化に取り組んだことや、朝学習やパワーアップタイムの短時間学習を実施したことで基礎学力が定着し、成果として表れつてゐる。
- 児童質問紙の「学級の友達との間で話しあう活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」では、肯定的回答回答が66.7%で、前年度71.5%より4.8ポイント減少となつた。

○ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力向上に向けて

「特に課題である握力・長座体前屈・反復横とびの平均の記録を、男女共に大阪市の平均値を上回るようにする。」は、男女共に体力合計点が全国の平均値を上回った。特に、男子は7.68ポイント上回る結果となった。

しかし、握力・反復横とびでは、女子は大阪市の平均値を下回った。

学校園の年度目標にかかわって

- ① 「学校の学習はわかりやすく楽しい」の項目について、校内調査（児童アンケート）では、84%の肯定的回答があり、ほぼ目標数値に至ることができた。同様の校内調査（保護者アンケート）では、肯定的回答が85%となっており、児童アンケートの肯定的回答と同程度の結果となった。
- ② 「ICTを活用した調べ学習の方法を身につけることができた」の項目について、校内調査（児童アンケート）では89%の肯定的回答があり、概ね目標数値に至っている。本校のICT活用率が高いことから、昨年度「学校情報化優良校」に認定された。今年度も引き続き、校内の研究主題を「子どもが意欲的に学ぶICT機器を効果的に活用した指導法の工夫」として授業研究を進め、「主体的・対話的で深い学び」につながるような授業改善を図ってきた。
- ③ 今年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目について、男子は目標数値を3.7ポイント上回ったが、女子は目標数値に至っていない。

校内調査（児童アンケート）の「休み時間は、友だちと運動場で遊んでいる」では、全校児童の肯定的回答が88%であった。前年度より4ポイント向上しており、外遊びの習慣が一層定着し、日頃から運動に親しむ児童が増えてきている。

- ④ 「給食前に手洗いをしている。」の項目について、校内調査（児童アンケート）では、95%の肯定的回答があり、目標数値を5ポイント上回った。

大阪市立九条北小学校 平成 31 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95 %以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 85 %以上にする。 ○ 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 ○ 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 今年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について、肯定的回答の割合を 80 %以上にする。 ② 今年度末の校内調査（児童アンケート）における「相手の気持ちを考え、仲良く助け合っている」の項目について、肯定的回答の割合を 88 %以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 1 安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ いじめ・問題行動、不登校・児童虐待等の実態把握に努めるとともに、全教職員間で情報の共有化を図る。 ○ 防災・減災教育の推進 ○ 安全教育の推進 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 児童理解実践交流会を定期的（年間 5 回）に実施し、情報の共有化に努める。 いじめアンケートを学期に 1 回実施し、実態把握に努める。 ◇ 地域合同防災訓練を区役所・消防署と連携して実施する。（年 1 回） 地震（津波）・火災・台風を想定した避難訓練を実施する。（年 3 回） ◇ 全学年児童を対象に交通安全学習の実施（年 2 回）、高学年児童を対象に防犯教室・非行防止教室の実施。（年 2 回） 	B
取組内容②【施策 2 道徳心・社会性の育成】	

- ◎ 人権教育・道徳教育の推進
- ◎ キャリア教育の推進
- ◎ たて割組織を活用した特色ある児童会活動の推進

指標

- ◇ 全学年児童を対象に「言葉遣いアンケート」の実施。(年2回)、「言葉づかい週間」「思いやり月間」を設定し、全校児童で相手を思いやる気持ちを高める取り組みを実施する。
- ◇ 道徳教育年間指導計画の中に、言葉遣いに関する内容を組み入れる。毎学期、言葉遣いに関する指導を行う。
- ◇ 6年生児童を対象に、地域人材を活用した人権講話の実施とピースおおさか・大阪歴史博物館の見学。3年生児童を対象に福祉体験（車いす体験・アイマスク体験等）の実施。5年生児童を対象に、地域人材を活用した福祉に関する講話の実施。
- ◇ 3年生児童を対象に、地元の商店街やスーパーの見学。5年生児童を対象に、地域人材を活用した地域の町工場の見学と職業講話の実施。6年生児童を対象に、知的財産特別授業の実施。
- ◇ たて割班による「夏の集い」「全校オリエンテーリング」の実施。毎週金曜日に児童集会を実施。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容①】施策1について

- いじめアンケートや児童理解実践交流会や職員会議後の児童についての話し合いなどで、児童についての共通理解を図っている。また、避難訓練、交通安全学習や非行防止教室も計画的に実施した。

【取組内容②】施策2について

- 「言葉遣いアンケート」を計画的に実施して、実態に合わせた指導を、年間を通して継続的に進めることができた。また、「思いやり月間」での「相手の気持ちを考えている人見つけた」などの取り組みを行い、相手の気持ちを考え、仲良く助け合う気持ちを高めることができた。
- 今年度は百周年の年ということもあり、例年以上にたてわり班で活動する機会が多かった。特に、高学年の肯定的回叡率は例年より高い結果となった。どの活動も高学年が中心となって班をまとめられたことや、周りから認められたことに達成感を感じる児童が増えたことが、アンケートの結果につながっていると考えられる。
- 3年生以上のキャリア教育も計画通り進めることができた。

次年度の改善点

【取組内容①】施策1

- 災害について、児童・教職員がイメージをもって取り組めるように、事前事後指導を行う。
- 火災など非常時の行動の共通理解を行う。
- 児童の実態交流も継続して行う。

【取組内容②】施策2

- 「言葉遣いアンケート」の項目や「思いやり月間」の取り組みを、工夫や改善をしていく。
- 来年度以降も、行事や集会の活動が子どもたちの意欲や楽しさにつながるように、工夫・改善していく。

大阪市立九条北小学校 平成31年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】	
全市共通目標（小・中学校）	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ○ 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度と同程度にする。（前年度は、どの学年も0%） ○ 小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント増加させる。 ○ 小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 ○ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点（教育振興基本計画の成果指標）の向上に向けて、特に課題である握力・長座体前屈・反復横とびの平均の記録を男女共に大阪市の平均値を上回るようにする。 	B
学校の年度目標	
<ol style="list-style-type: none"> ① 今年度末の校内調査（児童アンケート）における「学校の学習はわかりやすく楽しい」の項目について、肯定的回答の割合を85%以上にする。 ② 今年度末の校内調査（児童アンケート）における「ICTを活用した調べ学習の方法を身につけることができた」の項目について、肯定的回答の割合を90%以上にする。 ③ 今年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目について、肯定的回答の割合を男女共に全国平均より3ポイント向上させる。 ④ 今年度末の校内調査（児童アンケート）における「給食前に手洗いをしている」の項目について、肯定的回答の割合を90%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 基礎学力の向上を図るため、朝学習やパワーアップタイムなどで計算や漢字、音読や視写など内容を工夫して継続的に取り組む。 ◎ 家庭学習の習慣化。 ◎ 習熟度別少人数授業など個に応じた指導の充実を図る。 ◎ 体験活動を生かした学習内容を工夫する。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 中・高学年児童を対象に、市販のプリント教材（カラー版）を活用して、学習内容に対する興味・関心を高める。 ◇ 宿題の内容を全学年揃える。「めざせ漢字博士」の実施。 ◇ 学びサポーターの活用により、個に応じた指導を充実させる。 ◇ 4年生児童を対象に、大阪市立科学館の見学の実施。全学年児童を対象に、劇鑑賞会の実施。6年生児童による区スポーツ交歓会への参加。 	B
<p>取組内容②【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 英語教育の推進 ◎ ICTを活用した教育の推進 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ パワーアップタイムを設定し、全ての学年で短時間英語学習（10分）を週3回実施する。 ◇ 全ての学年・学級でICT機器を活用した授業実践を工夫する。 教員全員が年間1回以上の授業研究を行うとともに、全体研究授業を年間3回以上実施する。 ◇ プログラミング教育の推進。 	B
<p>取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 子どもの体力向上のための取組の充実。 ◎ 手洗いの徹底。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 全ての学級で「みんな遊び」（外遊び）を工夫する。体力の向上につながるような集会活動を工夫する。冬の時期に「かけ足朝会」を実施する。 ◇ 保健強調週間（学期に1回）の設定。給食前の手洗いチェックの実施。保健だよりや給食だよりの活用。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【取組内容①】施策5について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ パワーアップタイムや朝学習での取り組み内容を統一したことにより、系統立てて国語や算数、英語の学習に取り組むことができ、個々の力を伸ばすことに繋がってきている。加えて、次の学習時間の準備や気持ちの切り替えをスムーズに行うことができた。家庭学習の内容も全学年統一したことで、学習の基礎も身についてきている。また、算数科の学習を中心に、習熟度別少人数指導を行った。各学年の実態に応じて学習形態を工夫することで、個に応じた指導、支援を行うことができている。その結果、児童の学習意欲の向上にも繋がっている。 	

【取組内容②】施策6について

- 毎週3日間継続してモジュール学習を行うことができた。
- ICT教育については、年間指導計画に沿って取り組むことができた。しかし、タブレットを使う機会が多いため、パソコンの扱いを忘れてしまう児童がいた。
- ICT教育に関しては、積極的に活用し使用回数が増えたが、児童アンケートでは下がった学級があった。
- プログラミングロボットを使って、プログラミング教育を行うことができた。しかし、全学年で取り組むことができていない。

【取組内容③】施策7について

- 外で遊ぶように声をかけるだけでなく、年間を通して学級ごとに「みんな遊び」の計画を立てたり、かけ足朝会やなわとび集会などに取り組んだりすることで「休み時間は友だちと運動場で遊んでいる」と回答した割合が88%と、前年度の84%よりも良い結果となった。
- 給食前の手洗いに重点をおき、保健強調週間にも学期に1回ずつ取り組んだ。委員会の児童が手洗いの放送、給食室前での手洗いのチェック、「ほけんがんばりカード」のイラストを描いたり、賞状を作成して表彰したりするなど、主体的に関わったことで、手洗いへの意識を高めることができた。その結果、「給食前の手洗いをしている」と答えた児童の割合は95%と前年度の85%より大きく上回った。

次年度の改善点

【取組内容①】施策5

- 家庭学習は内容を統一して全校で取り組んでいるものの、習慣化できていない児童もいるため、手立てが必要である。
- 習熟度別少人数指導の取り組みにより個々の学習意欲の向上に繋がっているが、授業で自分の考えを書いたり発表したりする児童の割合が低下している学年もあるので、授業内容の工夫などが必要である。

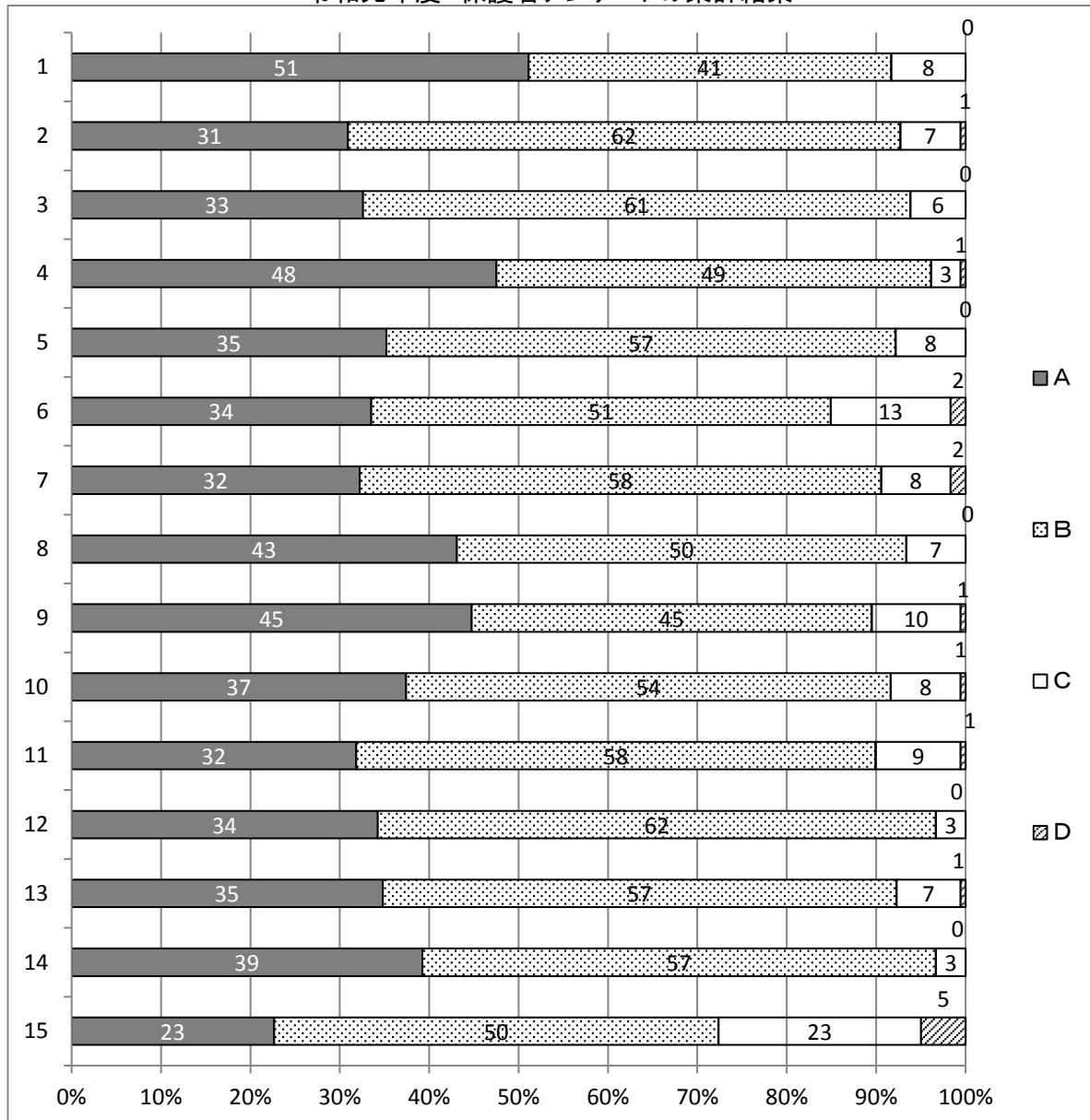
【取組内容②】施策6

- ICTに関する児童アンケート「調べ学習の時に、何かを使って調べることができた。(高学年ICT)」という内容を「ICTを活用した授業をわかりやすく楽しい。」などの変更を検討する。
- プログラミング教育の必修化により、プログラミングロボットの年間計画の作成が必要。また、5年生からの必修に伴い、Scratchなどのアプリの使用についても計画を立てていく。

【取組内容③】施策7

- かけ足朝会となわとび集会の時期が近かったので、時期をずらして実施する。
- 給食前の手洗いだけでなく、清掃後の手洗いにも重点を置いて取り組む。
- 睡眠時間が非常に短い児童が多い。スマホやタブレットなどが原因である。そのことで様々な場面で弊害が出ているように思う。土曜授業などの機会に保護者にも参加してもらい、専門家の講演会などを開くなど検討が必要である。

令和元年度 保護者アンケートの集計結果



A→よくあてはまる B→わりとあてはまる C→あまりあてはまらない D→全くあてはまらない

質問

- 1 子どもが、楽しく喜んで学校に行っている。
- 2 学校は、保護者・地域の願いに応えている。
- 3 学校は、安全指導や施設・設備の整備に努めている。
- 4 学校の様子を学校だよりやプリント等でわかりやすく伝えている。
- 5 学校は、家庭との連絡をよく行っている。
- 6 子どもは、授業がわかりやすく、楽しいと言っている。
- 7 学校は、子どもの人権を尊重する姿勢で指導にあたっている。
- 8 学校は地域人材や施設を活用したり、体験的な学習を取り入れたりして指導している。
- 9 子どもは、学校行事や児童会活動が工夫されていて、楽しいと言っている。
- 10 学校は、基本的な生活習慣が身につくように指導している。
- 11 学校は、相手の気もちを考えていじめ等のない学級づくりに取り組んでいる。
- 12 私は、家庭においても、子どもに基本的生活習慣がつくようにし、あいさつや身だしなみ、言葉のつかい方、礼儀等のしつけに努めている。
- 13 私は、栄養面や食事中のマナー等、食生活に気をつけている。
- 14 私は、子どもの学校生活等の話をよく聞くように努めている。
- 15 私は、PTAや地域の活動にできる限り参加しようと思っている。